

棚でみつけた気になる本を読んでみた

サムライガール

キャリー・アサイ:著/森バニース:訳/田倉トヲル:絵 メディアファクトリー 2009年刊

- A「みなさんこんにちは。今回はFさんとふたりで対談をお届けします！」
 F「今回の本は『サムライガール1刀は青くきらめく』です。前から気になってたんですよね、この本。海外の作家さんなのにサムライって・・・」
 A「けっこう貸出はされていますよ。表紙は日本のラノベ風でキレイですよね」
 F「そうですね。表紙に惹かれて手に取った人も多いはずですよ」
 A「かんたんにあらすじを説明すると、飛行機事故でただひとり奇跡的に助かった“ラッキーガール”ヘヴンが東京の裕福な家庭、光郷家に引き取られる」
 F「義兄を殺された復讐&自分の命を狙ってくるものたちから身を守るために、義兄の友人ヒロからサムライの道を学ぶことになる、と。こんなところでしょうか」
 A「冒頭からロサンゼルスで結婚式のシーンですね。ヘヴンちゃんは政略結婚でチンピラの見本みたいな男と結婚させられそうになります」
 F「そこに現れるんですよね、**忍者**が。」
 A「え、いやいやお義兄さんを忘れないでください。助けにきてくれましたよ」
 F「一瞬で倒されてましたけどね～。最初は義兄がキーパーソンだと思ったんですが」
 A「私もです。しかし謎の忍者の襲撃によって義兄が殺され、逃亡するというハリウッド映画を見ているような展開に・・・」
 F「なんでしょうね、この話に漂う違和感。なぜサムライを目指すことになるのか」
 A「ヘヴンちゃんも日本育ちのはずなのにノリが完全にアメリカのティーンエイジャーで。そこは海外の作家さんなので仕方がないのかも」
 F「何者でしょうか、作者のキャリー・アサイさんは」
 A「グーグル先生に聞いてもわかりませんでした。著作もこのシリーズだけです。でもこのシリーズはアメリカのティーンの間で人気があったみたいですよ」
 F「うーん。海外の子が読むとおもしろいのかな？違う世界を体験できる感じで。日本人が読むとツッコミ満載ですけど」
 A「サムライと忍者のイメージが強いんですね、日本は」
 F「予想できない展開がお好きな方にはおすすめします」
 A「ヘヴンちゃんにはまだまだ秘密がありそうですね。1巻は序章だと思います」
 F「全6巻完結となっておりますので、気になる方はぜひ読んでみてください！」
 A「ホンダラケポストに感想などお寄せいただけると嬉しいです」

933/アサ



ホンダラケ

H28.12.01.

年末年始です。みなさん、風邪などひかないよう注意してね。
<http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>

年末年始、本を読もう。 ~すべての本にPOPがついているぞ!~

今回は今までとはちょっと違った展示をお届けしますよ。
 なんとジャンル問わず本を並べ、その本すべてにPOPがついているのだ！
 あますところなく見て、読んで、自分にぴったりの一冊を見つけてね。

ペナンブラ氏の24時間書店 933/スロ



ロビン・スローン著/島村浩子:訳 東京創元社 2014年刊

まったく繁盛していないのに24時間営業で、置いている本はGoogle検索に引っかからないものばかり。やってくるお客も謎だらけなら、仕事内容も妙な日記をつけ続けるだけ、という奇妙なことだらけ。そんな書店で働くことになった青年クレイは、店にまつわる暗号をGoogleの最新技術を使用しながら解読していく！虫眼鏡の捜査はもう古い！？現代技術を駆使してたどりついたのは、500年越しの謎だった——。コンピュータに馴染みのある若者に読んでほしい本です！

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。
 本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。（もちろん、大人の方もお読みいただけます）
 2か月に1度、年6回発行予定です。
 皆様が手に取りたくなる誌面にしてまいります。ご期待ください。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「星」。

「レ・ミゼラブル (ああ無情)」

ヴィクトル・ユゴー：著 清水正和：編・訳 福音館書店 1996年刊



たった一つのパンを盗んだ罪で、19年間も牢屋に入れられたジャン・バルジャン。そんな彼は司教の温情によって正しき道を歩もうと決心する。僕とこの本の出会いは、小学校の時に「考えさせられる小説」と紹介されているのを見たことだった。考えることが苦手な僕は、その時は本を手にとらなかったが、半年後「人間の温かさを感じられる本」という別の紹介文と出会い、ついに本を手にとってみた。本の中には罪と罰をめぐる何十年にも渡る人々の物語があり、見る人によって様々な見方ができてとても面白い。僕は正義に味方したジャン・バルジャンに共感したが、あなたはどうか。



G/ユゴ

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

リサイクル予備軍

～なぜ君は借りてもらえないのか～

ワンダラン！

素樹文生：著 新潮社 2001年刊

ニューヨークで生まれてアジアを旅し、その経験を書いた旅行記でデビューした作者の「とにかく自由にいろいろ書いてみた」、まるでひとりごとのようなエッセイ。このなんともいえない表紙からも、フリーダムさはピシバシ伝わってきますよね。見た目はかなりいいし内容も読みやすいのに、なぜ借りられないの??

と思って検索してみると、こちら。もう出版社から手に入れる事が出来ません！本の存在自体が忘れられて、ずーっと書庫で眠っちゃってたのかな。十年以上前の作品なので、出てくるアーティストや有名人がヤングには分からないものになっているのもリサイクル予備軍の原因だったりして。



914/モト

新着本Pick Up



933/マテ

レイン 雨を抱きしめて

アン・M・マーティン：著 西本かおる：訳 小峰書店 2016年刊
高機能自閉症のローズは小学校5年生。素数と同音異義語が好きで、ルールを守ることが重視する。父親はローズの障害を受け入れず、学校にもなじめないローズの心の支えは雨の日に父親がひろってきた犬、レイン。ところが巨大ハリケーンが来た日、レインは行方不明になってしまう……。ローズの障害によるこだわりなどが物語をうまく形作っており、ハラハラさせる展開でどんどん読ませます。犬が好きな人にもおすすめです。

YA新着本

請求記号	タイトル	作者名
070/16	新聞力	斎藤 孝
F タケ	響け！ユーフォニアム北宇治高校の吹奏楽部日誌	武田 綾乃
F ハラ	名もなき風たち	はらだ みずき
F マイ	東京廃区の戦女三師団	舞阪 洸

執筆者の腕がひたすらに試される 名作本コラム

『変身』フ란ツ・カフカ

高橋義孝：訳 新潮文庫 1952年刊

「ある朝、グレーゴル・ザムザがなにか気がかりな夢から目をさますと、自分が寝床の中で一匹の巨大な虫に変っているのを発見した。」

とても有名な冒頭です。一行目から読者が「ん!？」と混乱させられる名文ですね。そしてこれこそ、この作品のストーリーのすべて。そう、昨日まで普通の人間だったグレーゴルは、なぜか！意味もなく！突然に！虫になってしまったのだ!!! 巨大な虫に「変身」してしまったグレーゴルと、彼を取り巻く人々の「変身」を、観察記のように淡々と描いた小説です。とても薄いので手に取りやすく、また内容が内容だけに読み始めたら一気に読み進めてしまいますよ。はたしてハッピーエンドは待っているのか!?



943/カフ